修学旅行 ―自主研修を終えて―

十一月六日からの二年生の修学旅行は、友情を育む旅であり、珍道中でもあったようです。

楽しみなことのためには、早起きも苦になりません。起こされなくても、自然に目が覚めます。十一月六日早朝六時、まだ暗い学校をバスで元気いっぱいに出発し、三泊四日の修学旅行がスタートしました。二年生七十五名の、奈良、兵庫、大阪、京都への旅です。

天気が良いと、旅行は楽しいものになります。二日目の「人と防災未来センター」へ着いたときは雨が降っていましたが、そのほかは暖かい日が続きました。しかし、修学旅行は、天気が良くても悪くても、きっと楽しいものです。「いつ、どこへ行くか」よりも「だれと一緒に行くか」が重要だからでしょう。京都での班別自主研修が計画通りに進められなくても、ユニバーサルスタジオジャパンでの行列時間が長くても、集合時間に遅れて少し怒られても、忘れ物をしてしまっても、みんなと一緒だから楽しいのです。一緒に同じものを見て、感想を言い合える人がいたから、感動は何倍にもなるのです。

何年経っても思い出せる風景があるのは、感動が強かったからです。大仏が大きかったことも、金閣寺がピカピカだったことも、いつまでも思い出すことができるでしょう。それは、一人で見たのではないからです。

二年　安倍　駿

私が今回の修学旅行で一番心に残っているのは、奈良公園です。鹿の数が多く、まるで絵に描いたような光景でした。ここで教わったことは「早起きは三文の徳」ということわざです。昔、家の前で鹿が死んでいると三文の罰金を取られるため、早起きして隣の家の前に置く、という習わしがあったことから生まれた言葉だと知り、とても勉強になりました。二日目の「人と防災未来センター」では、被害を再現した街並みやドキュメンタリー映画を見たため、思わず涙が出ました。三日目の清水寺では、階段を上った瞬間、テレビで見るのとは全く違う景色に感動しました。最終日に伊丹空港から飛行機が出発した時には、もう一度訪れたい気持ちになりました。

二年　藤山　エリカ

私は、初日に訪れた春日大社から見た三笠山が心に残りました。百人一首で阿倍仲麻呂が詠んだ「天の原ふりさけ見れば春日なる三笠の山に出でし月かも」という故郷を思う歌の説明を受け、早くも秋田が恋しくなりました。また、自主研修で訪れた地も印象に残っています。私たちの班は「京都偉人ゆかりの地を巡る」というテーマで、北野天満宮・壬生寺・八木邸・八坂神社に行きました。新撰組の屯所である八木邸ではガイドさんから新撰組の誕生の話を聞き、さらに建物に残る実際の刀傷を見るに至り、激動の歴史を肌で感じました。そして、八坂神社は、祭神が「和歌の祖」と言われており、それに由来して毎年一月三日に「かるた始め式」が行われているそうです。京都には数多くの百人一首ゆかりの地がありますが、三笠山や八坂神社の紅葉を目にして、平安時代に思いを馳せることができました。

二年　鈴木　菜生

私が修学旅行で感じたこと、学んだことは三つあります。一つ目は奈良公園です。鹿のイメージしかなかったのですが、実際にはたくさんの神社がありました。参拝客は外国人の方が多く、世界的な観光地なのだと実感しました。二つ目は「人と防災未来センター」です。阪神淡路大震災のシアターや遺品の展示などを見て悲しくなりましたが、被災者の強さを感じ、生きることについて考えさせられました。三つ目は自主研修で行った建仁寺です。国宝の風神雷神図屏風は教科書で見るよりも数倍の迫力がありました。修学旅行を終えて、楽しかったことはもちろんですが、実際の地を訪れたことで考えさせられることが多くあり、とても勉強になりました。

第30回定期演奏会

今年で三十回を迎えた本校吹奏楽部の定期演奏会は、雄勝文化会館「オービオン」メインホールにて盛大に行われました。「Family」をテーマに、部員がひとつになって、アンコールを含む、三十曲を越える演奏をしてくれました。本校生徒はもちろん、地域の方々にも多数ご来場いただき、大成功に終えることができました。

吹奏楽部部長　渡部涼子

この度、私たち雄勝高校吹奏楽部は三十回目の定期演奏会を迎えることができました。三十回の記念演奏会ということで、今年は曲数を増やして、演奏面はもちろん、演出の細部にもこだわりました。どの世代の方でも聞き覚えがあったり、なじみの曲であったりするものを選び、構成を考えました。NHKの朝のテレビ小説「あまちゃん」のオープニングテーマから、ジブリ、J-POP、そして演歌に至るまで、メドレーを含めた全三十曲を演奏しました。例年の演奏会より曲数が多く、困難を極めましたが、細井先生の指導のもと、全力で練習に努めてきました。

今年の定期演奏会は、私が三年間活動してきた中で、最も心に残る演奏会となりました。三十回という記念の演奏会に参加できたことは一生の思い出となりました。また、これまで指導してくださった顧問の細井先生、藤田先生をはじめ、学校の先生方、保護者の方々、そして地域の皆様には本当に感謝しています。私達吹奏楽部は皆様に支えられて活動してきました。今後とも雄勝高校吹奏楽部を応援してくださいますよう、お願いします。最後に、これまで一緒に活動してきた部員にも感謝したいと思います。ありがとうございました。

職場訪問

十一月六日、一年生七十七名は職業観と進路意識の高揚のため、地元企業四社を訪問しました。

一年　土田　楓

秋田木工株式会社は、曲げ木技術で世界的にも有名であることが分かりました。地元でこんなに活躍している企業があることと、イスを作るために多くの手間と時間がかかっていることを初めて知り、驚きました。出来上がったイスはとても座り心地が良かったです。

秋田指月株式会社ではたくさんの機械や細かい部品があり、さまざまな種類のコンデンサが作られていることを知りました。また「素直な人材」が求められていることを知り、これからの学校生活では、素直さを心がけて生活していきたいと思いました。

一年　小松　奏子

今回の職場見学を通して、共通して求められていることがありました。一つ目はあいさつや返事、服装、掃除などの基本的な行動を普段からしっかりするということです。二つ目は、思いやりです。社会に出てからも必ず必要とされるので、これからの学校生活でも人との関わりを大切にすべきだと思いました。

そして私たちの住んでいる秋田にも、世界で活躍している企業があることを改めて知ることができました。今まで知らなかったいろいろな職業を知ることができたので、これからももっと視野を広げていきたいと思います。

テーブルマナー

十一月六日、三年生を対象にテーブルマナー講習会が開かれました。今回はフランス料理でのマナーです。フルコースは初めてという生徒も中にはおり、若干緊張した雰囲気の中で講習開始です。

初めに講師の先生から「ナプキンを二つに折り膝の上に置くのは、スマートに口元を拭うためです」と教わると、生徒も感心しながらそれを実践。並べられたシルバー（フォーク・ナイフ類）を外側から順に使用しながら、まずは前菜のタコのマリネ、かぼちゃのポタージュの順で食します。慣れない食材と、意外と難しいスープの飲み方に、生徒も先生方も苦笑いしながら完食。

次第に緊張も解け、生徒らは「こんなときはどうすればよいのか」と積極的に質問しながら正しいマナーを身に付けていきました。三品目の魚料理、四品目の肉料理ともなると、スムーズな手つきで次々と料理を口に運びます。デザートのアイスクリーム・フルーツ添えまで、皆楽しく食事をすることができました。

最後に講師の先生から「大事なのは家族や友人らと会話を楽しみながら食事をすることです。正しいマナーで、大いに食事を楽しんで」の一言をいただき、充実したテーブルマナー講習会となりました。

三年　戸沢　拳介

私は将来、調理関係の仕事に就くため、今回のテーブルマナー講習は貴重な体験となりました。調理関係の仕事に限らず、社会人として生活していく中では、正式な会食の場に出合う可能性もあると考え、参加した全員が真剣に食事に臨んでいました。

ホテルのスタッフの方の説明を受けながら、コース料理をいただきましたが、初めての体験に緊張している人もいました。食器の使い方から上品に見える作法まで学び、自分が大人になったような気持ちになりました。

今回の講習を通して、「マナー」を大切にして食を楽しむことを学びました。この経験を様々な食の場面に生かしたいと思います。